



愛協だより vol.45

障がい者支援施設 鶴が丘学園ってどんな所？

鶴が丘学園 外観



鶴が丘学園は昭和45年11月、精神薄弱者更生施設として事業が開始されました。

開設当初は50名の定員で発足しましたが、当時釧路地区には知的障がい者のための施設が設けられておらず在宅で生活する方も相当数いたため、地域のニーズに応えるべく増築や定員の増員を時代の移り変わりとともに進んできました。

平成24年2月、障害福祉サービス事業を現在の『生活介護（定員100名）』『施設入所

（定員90名）』の新体系へ移行し、施設名称を「障がい者支援施設 鶴が丘学園」に変更。同月完成した新園舎での運営が始まりました。現在は86名の利用者さんが施設入所を利用しており、24歳から82歳まで幅広い年齢の利用者さんが生活しています。

今回は鶴が丘学園の利用者さん、そして利用者さんを日々支援する職員の方々の日常についてご紹介いたします。

鶴が丘学園 写真館



【旧園舎正面】

令和6年 現在



>>>



現在の園舎の
向かい側にあり
赤い三角屋根が目印♪

♪

旧園舎の一部や正門は保存されており今も鶴丘の地に当時のまま残されています

鶴が丘学園の5つの工房

第1工房
どんぐり工房

こちらの工房では余暇活動や自立課題などを中心に行っており、昼食時には女性利用者さん全員がこの工房で一緒に食事をとります。



手先の器用な利用者さんが多く、編み物や刺し子などの製作をしている方もいました。行事で使用する看板をシール貼りで作成するのが得意な利用者さんもいらっしゃいます。



手先の器用な利用者さんが多く、編み物や刺し子などの製作をしている方もいました。行事で使用する看板をシール貼りで作成するのが得意な利用者さんもいらっしゃいます。

集中できるよう
仕切りが設けられています



これから作業する
ペットボトルや空き缶が
こんなにたくさん！

第2工房
みのきよ工房

こちらの工房では生産活動でリサイクルを中心に行っています。ペットボトルや空き缶を回収した後、飲み残しを捨ててラベル・キャップ・プルタブなどを取り外し、しっかりと仕分けをしたのちに外部の業者さんへ届けます。

作業に気持ちが向かない利用者さんが工房を出て行った時、支援員さんは無理に呼び戻すのではなく、利用者さんの安全を確認した上で自分から戻って来るのを待っていました。

待っている間もその利用者さんから目は離さず、その後戻って来た時の言葉かけもすごく自然で優しくて『支援と見守り』そのどちらも感じられる関わりが、とても素敵だな...と感じました。



支援員さんと一緒に
配膳車を運んでくれる利用者さん♪

1人で複数人の食事介助が可能な
このU字テーブルがとっても画期的でした！

ここがスゴい！

男性利用者は食べるスピードが速い！

配膳が終わる前に食べ終わる方も多いようで、
男子学生寮のような勢いを感じました♪



ご存じでしたか？

みのきよ工房は、当時の常務理事である
M.U氏とK.O園長が共同で建てた
工房であり、お2人の名前を組み合わせた
名称で「みのきよ」と名付けられました。



第3工房 ぼぶら工房

こちらの工房ではビーズやパズル・切り絵などの手工芸や、DVD鑑賞・バランスボールなど、様々な創作活動を行っています。



高橋 修副園長のそばをずっと離れない利用者さんや、学園内を歩いているとニコニコとそばに寄って来る利用者さんがたくさんいます。修副園長もすれ違う利用者さん1人ひとりに声をかけていて、嬉しそうな顔を浮かべる利用者さんの表情がとても印象深く残っています。



とっても細かい
切り絵
手先が器用です！

2つのフロアに分かれて活動をしているぼぶら工房さん。ニコニコと笑顔で出迎えて下さったり、自分が行う作業を見せに来て下さる方がいたり、和やかな優しい時間が流れていきました♪

【鶴が丘学園とあいこう認定こども園による施設間交流】

地域交流の一環として、農耕作業を通じ利用者さんと園児さんとの交流を図り、食育に関心を持ってもらえるよう種植え（苗植え）・収穫・食育クッキングを半年かけて一緒に行なっていきます。初の試みであるこの施設間交流、その1回目に密着しました！



01 利用者さんと職員さんが手作りのPOPで出迎えます。小さなシールをたくさん貼って文字にしています！

02 事前に子どもたちが園で種から育てた苗を畑に植えています。

03 子どもたちが丁寧に苗を植えています。

04 園児が植えた苗に、利用者さんが水をあげています。

05 こんな風に顔を合わせてお話する場面が多くありました。



06 園長先生や坂井課長、利用者さんが見守るなか...

07 ジャガイモを植えたり...

08 原木に生えたしいたけの収穫体験もしましたよ♪

09 交流の時間はあっという間。『また来るね！』と元気に手を振ってお別れしました。

10 利用者さんも職員さんもバスが見えなくなるまで見送りました。



みんなで植えたとうきびの苗は、6週間でこんなに大きく育ちました！今は小さなこのヤングコーンもこれからもっともっと大きくなります♪

そして！先日あいこう認定こども園へ出張しヤングコーンの皮むきをしてきました！秋には大きくなったとうきびをみんなで収穫して茹でとうきびを食べる予定です♪今から9月が楽しみですね♪

編集後記

様々な障がいを抱える利用者さん。その特性は10人いれば10とおりで、支援員さんは1人ひとりに寄り添った支援を行っています。気持ちのコントロールが難しく抑えられなくなってしまった利用者さんの気持ちを時には体で受け止める、そんな場面を目の当たりにしました。その場のぎではない、文字通り真正面から利用者さんを丸ごと受け止める支援員たちの姿に、障がい者支援施設の日常を少し知ることが出来たこと、職員さんの細かな目配りや心配り、利用者さんがどれ程支援員たちを頼りにしているのかをこの目で見られたことはとても貴重な経験となりました。記：M.H

社会福祉法人 釧路愛育協会 法人本部

0154-46-8160 0154-46-8161

<http://kushiro-aiiku.or.jp>

第4・5工房 さくら・かづら工房

こちらの工房では菓子製造・農耕を中心とした生産活動を行っています。菓子製造では学園ブランドであるどら焼きや、クッキー・飴などを受注に応じて生産しています。



【かぼちゃ】



【トマト】



【スナップエンドウ】



鶴が丘学園と言えば、この広大な畑！

見渡す限りの一面の畑を全て鶴が丘学園で所有しており、とうきび・原木しいたけ・ミニトマト・かぼちゃ・スナップエンドウなど、たくさんの野菜を栽培しています。（スイカを自分で育てている利用者さんもいらっしゃるようです...すごいですよね！）農薬を使っていないこともあります。本っ当に美味しい、新鮮なお野菜です。

そして！

この広大な畑で先日行われたのがこちら！



【この畑を守っているK係長】